



きらきらマタニティーたより



VOL.6



今回のきらきらマタニティーたよりは第6号。**妊娠糖尿病**についてのお話です。

糖尿病と聞くと、いまでは生活習慣病とよばれるくらい一般的な病気となってきましたが、妊娠糖尿病とは、妊娠をきっかけに血糖のコントロールがうまくいかなくなり、一般的な糖尿病と同じく血糖の測定や食事コントロール、インスリンに代表される血糖降下剤の使用などが必要となる病態です。妊娠中のホルモンバランスの変動によって発症するため、妊娠が終了、つまり分娩後には治療を必要としないケースもよく見られます。よりリスクの高いのは高齢妊婦や肥満妊婦、両親が糖尿病である妊婦などがあげられますが、当院では全妊婦を対象に妊娠初期と後期の採血で、スクリーニングを行っています。

では、妊娠糖尿病になるとなにか怖いのでしょうか。妊娠中のリスクとしては流産や妊娠高血圧症候群、羊水過多症などがあり、赤ちゃんのリスクは先天奇形や巨大児、肩甲難産などがあげられます。出産後は赤ちゃんが低血糖や低カルシウム血症などになり治療が必要となることもあります。また、東京女子医大糖尿病センターの調べでは妊娠を契機に発見される糖尿病は妊娠初期で6.0%、妊娠中期2.6%、妊娠後期1.3%となっており、そのうち**将来的に糖尿病を発症するリスクは7倍以上**とされています。

妊婦さん全員が妊娠糖尿病になるわけではありませんが、妊娠中こうしたきっかけで食生活や生活習慣を見直す機会になります。体重コントロールばかり言われてしんどいというマイナスイメージを持つのではなく、自分の生活習慣を整える良いチャンスだ！と前向きに捉えることができれば体重コントロールも上手にできるかもしれませんね。

市立伊丹病院 産婦人科

